



日本サーバス会長 T. Y.

お盆を過ぎても厳しい暑さが続いています。会員の皆さまはお変わりなくお過ごしでしょうか？日頃はサーバス活動にご理解、ご協力をありがとうございます。

春、多くの方が新生活を始め、日本サーバス本部も3月の国内会議で残されたいいくつかの課題を解決しながら前に進んでいます。会員の皆さまもトラベラーの受け入れホストとしてまた、旅に出て海外のホスト宅で驚きや喜びに満ちた体験をされていることでしょう。

世界は温暖化が「沸騰化」へと移行し、国内でも酷暑、大雨や台風等を体験しています。国際サーバスのピースセクレタリーはサーバス・ピースフォーラムを開始し、若い会員相互のコミュニケーション促進を図ろうという取り組みを始めました。

日本サーバスでは長い間検討が続けられてきた旅行支援の「竹中プロジェクト」の運用が間もなく開始します。このプロジェクトの目的は「若者と障がい者のサーバス旅行を支援する、日本サーバスの活動を活発にする」ことです。若い方たちが、海外に、そしてサーバスに関心を持っていただき、将来会員になっていただけたらという期待も込められています。新しいメンバーを増やして海外との草の根交流を深め、相互理解を促進していきたいと思えます。

## 今回の掲載内容

### I 臨時国内会議報告および決定（会員情報および文書管理者）

1. 職務内容
2. 業務分担
3. 任期

### II 退会届および支部異動届書式決定

### III 竹中プロジェクト開始！

### IV 国際サーバス地域イベント参加記

1. 初めてのサーバス旅行
2. あこがれのスイス

### V 日本サーバス 50 周年記念誌進呈！

### VI 国際サーバスニュースレター（日本語で要約）

### VII 編集後記

## I 臨時国内会議報告および決定

### —会員情報および文書管理者決まる—

臨時国内会議（Zoom 利用）が 2023 年 5 月 16 日に開催され、「会員情報および文書管理者」（本部役員）に九州支部の N. S. 会員が選任されました。詳細は臨時国内会議の議事録をご覧ください。

N. さんは本部 IT 委員と兼務になります。

1. 職務内容は会員情報や会則・内規、国内会議議事録などの公式重要文書の管理・保存を行う仕事です。
2. 役員の業務分担としては B 業務になります。
3. 任期は、他の役員同様 2024 年 12 月 31 日までです。ただし、B, C 業務の場合は再任を妨げないとなっています。

## II 退会届および支部移動届書式決定

### —新しい書式をつくりました。ご活用ください！—

これまでに、退会手続きはどうすればよいか。住所が変更になり所属支部が変わることになるがその手続きはどのようにすればよいか などの問い合わせが、サーバス本部に寄せられていました。そのような状況を踏まえて、それぞれに統一した様式を作成することにしました。支部長さんは、会員さんから退会や支部移動の届がなされた場合は、6 月 13 日に添付ファイルでお送りしました届出文書を会員さんへお送りください。後日、日本サーバスの Web ページから会員さんが同ファイルをダウンロードして使用できるようにします。

## III 竹中プロジェクト始まる！

### —海外旅行支援まもなく募集開始です—

旅行支援の「竹中プロジェクト」の運用が始まりました。これは本会の元会員である故 T. K. 氏の日本サーバスへの寄付（110 万円）を記念し作られたプロジェクトです。T. さんの若き日の経験から「今の若い人にもどんどん海外に出かけ、世界を見てほしい」というお気持ちを形にしたものです。詳しい事は支部長さんを通してお送りしました 8 月 4 日と 8 月 10 日付けのメールをご覧ください。

8 月 10 日に募集開始日をメーリングリストで予告しています。

募集期間は 2023 年 9 月 1 日～9 月 30 日です。

## IV 国際サーバス地域イベント参加記

国際サーバスの呼びかけで各国でイベントが行われました。参加された方の体験談を 2 件紹介します。

### 1 初めてのサーバス旅行 (2023, 5, 25～2023, 6, 7)

九州支部 S. M.

サーバスに入って初めての旅行と張り切っていたのにコロナ禍でキャンセルになり、やっとコロナが解禁され同じスイスのペンテコストミーティングに三年越しに参加できるようになった。日本からの参加者は 7 人、そのうち 1 人はスイスのミーティングの後個人旅行、4 人はイタリア方面、私は T さんと 2 人でドイツ方面にということになった。早速ホスト探し。その前に L O I 作りの壁が、

これが思ったより難しくサーバスのベテランの方に手取り足取りで教えてもらい完成（感謝です）。

さあまずはルートづくり。スイスに近いし、なんとなく良さそうねとフライブルク、それからストラスブールにも行きたいよね、とTさんと話しホストのリストを開けてみる。ウアーいっぱいいる！

これならすぐ見つかる！早速リストの写真、年齢、ロケーション etc. をみて選んでおそろおそろメール送信。翌朝起きてすぐにPC開けてみる。来てない。翌日、来てない。三日目も来てない。じゃあと諦め他の人にメール。返事が来たー！だけど残念、その日は都合でいません、と。また別の人にとTさんと二人で手分けして、4、5人くらいにメールしたがなしのつぶて。仕方なく次の場所ストラスブールの会員にも何人かメールを出したがいい返事はなし。そのうちにベテランの会



員さんから紹介してもらったカールスルーエのホストに連絡。なんとすぐにOK。事情を話すと彼女はフライブルクのホストも紹介してくれ、その人にメールするとこちらもOK。またカールスルーエのホストさんは顔が広く私たちが次に行こうとしていたチュービンゲン近郊のホストも紹介してくれた。ただそちらは二泊目は難しいということでチュービンゲンのユースホステルに予約。またスイスに到着した晩の宿泊先も探すのを忘れていた。慌ててチューリッヒ近くのホストを探す。今回は一泊だけなので、その条件もOKのところ。上手く見つかりました。

最後に帰国前のチューリッヒ近郊のホスト探し。これも会員さんに紹介してもらった方に連絡するとOK。つまり、やはり紹介してもらおうとOKの返事をもらいやすい。と言うことは人のつながりなのでですね。これぞサーバスの精神だと認識。



ルートはチューリッヒ空港着|---ビューラッハ1泊---ミーティング場所タルヴィル2泊---フライブルク2泊---カールスルーエ2泊---ヘッヒンゲン1泊---チュービンゲン（ユースホステル）1泊---フラウエンフェルト2泊---チューリッヒ空港。

ルート決定です。ホストを探し始めてほぼ5週間、5人のホストからOKもらったが最後に決まったのは出発1週間前。間に合いました。

5月25日出発 福岡国際空港でチェックイン、今回のフライトは福岡ー香港ーロンドンーチューリッヒだがスタッフにロンドンでは到着空港と出発空港が違いますね、と言われビックリ。知らなかった！

5月26日早朝ロンドンヒースロー空港到着。チューリッヒ空港に行くのはシティエアポート。HELPの札を胸に下げた若い女性に聞く。自動販売機でシティエアポートまでの切符を買ってくれる。電車で1時間、シティエアポート到着。電子掲示板でフライト情報をみると、なんと私たちのチューリッヒへのフライトはキャンセルになっている。スタッフに聞くと変更後のフライトは明日の夕方発。アコモデーションと3ミールはつけますと。理由は不明。どうしようもない。宿泊先はヒースロー空港のそば、またタクシーで戻る。もともとその日はチューリッヒ近郊のホスト宅に泊まる予定だった。ホテルに着いた後、その晩の宿泊先のホストに連絡しなければならない。ところが、そのホテルではネット接続が上手く行かない。大変！どうにか苦労して（この間4時間位）Tさんが日本のサーバス

会員の方に連絡して、そちらからホストに連絡してもらうことができた。ここまでですでに旅行、が終わったくらい疲れた！

翌日チューリッヒ空港に着いたのは夜の9時、そこからタルヴィルまで電車で移動、が、まず自動販



売機で切符の買い方がわからない。ここでもスマホが使えない。何人にも聞きながらどうにかタルヴィルまでの電車に乗ることができた。タルヴィルの駅からタクシーでミーティング場所のロッジまで行ったが、丘の上にあるらしく細い真っ暗な小径を登らねばならない。するとタクシーの運転手が降りて懐中電灯で足元を照らしながらロッジの玄関まで案内してくれた。空港でも、ここでも人の親切さに感動です。別ルートですでに着いていた日本人の仲間が連絡取れないので心配していた、と。私達もそれはわかっていただけどうしようもなかったのです。いくつものトラブルを乗り越え、とりあえず目的地に到着！

夜の10時過ぎ食事も残ってはず、おつまみ程度でお腹を宥め寝る。

翌日のイベントは動物園行き。果物を中に閉じ込めた氷のプレート状のものを大きな熊がプールの中でかじっていたのが目新しかった。夕食はロッジの中庭でラムのローストと黒豆の煮込み、美味しかった。参加者は日本人、ドイツ人、スイス人で20人位。



翌朝、ミーティング場所タルヴィル出発、皆とわかれTさんと二人旅。チューリッヒ駅からフライブルクへ。午後4時くらいに到着。リストに書いてあった道順でトラムに乗り、ホスト宅に到着。感じのいい50代の男性。素敵なマンション、あちこちに飾ってる子どもの絵、かわいい。夕食は庭のテラスで。サクランボの実がなってる、バラや紫陽花やいろいろの花。この男性ホストが作ってくれた、ひよこ豆、パプリカなどがいっば

いの野菜スープの美味しかったこと！お代わりしました。咲き誇る花々を眺めながら白ワインの夕食。18歳の息子さんも一緒におしゃべり。ヨーロッパに来たなあ！

次の日は息子さんに連れて行ってもらって、アジアマーケットで今晚私たちが作る予定のちらし寿司の材料を買い、教会広場へ、お昼用にホットドッグを買って立ち食い、教会見物。息子さんと



別れ私達は電車でティティ湖へ、きれいな湖の側でボーッと一休み。暑い、日本と同じくらい暑い！帰宅後急いでご飯を炊き、持ってきたすしの粉を混ぜ、ハム、スモークサーモン、ブロッコリーを入れたちらし寿司。豆腐の澄まし汁。好評でした。ホストは次に行くカールスルーエまでの電車の切符をネットで買ってくれました。とても親切。翌朝ホストは仕事で出た後、ちらし寿司が残ってたから食べようと思ったら空っぽ、あ、息子さんが食べたんだ！気にいってくれたんだ、よかったねと二人で苦笑。朝食後近辺を散歩。大学が近くにあり緑いっばいの気持ちいいところ。美しいグレイハウンドを散歩させてた女性とちょっとお

しゃべり。ヨーロッパに来るたびに思うのは、なんでこんなに街がきれいなんだろう？ということ。統一感のある、色を無駄に使っていない美しさ、自然素材だけで作られた建物、安っぽさのない美しさ。

また帰宅して荷物を持ち駅へ。カールスルーエまでの電車が途中の駅で止まり 10 分遅れますと表示、しばらくすると 15 分と、結局一時間近く遅れて動き出す。カールスルーエに着きトラムを乗り換えホスト (60 代女性) 宅へ。マンションの 4 階、リフトなし。重い荷物を抱えて階段を 58 段登る。



すぐホストと一緒に出てカールスルーエ城、植物園を見物して帰る。ここでも夕食はテラス、見晴らしがよく気持ちがいい。翌日マルシェへ、マグロとサーモン買う。お昼を軽く食べ、車で一時間、山の上のお城に連れて行ってくれる。山登りはきつい、トレッキングポールを持って来ててよかった。今晚の夕食は手巻き寿司。マグロとサーモン、アボカドで。ところが彼女の家にあった醤油が中国製で日本のとは全然ちがう。魚もあまり新しくなく美味しくなかった。でも彼女は全部食べてくれた。

次の日チュービンゲンへ。やはり途中で電車のドアが故障したらしく乗り換えだと。チュービンゲンからヘッヒンゲンへ。一時間遅れたにもかかわらず、ホスト夫婦が駅に迎えに来てくれた。そのままホーエンツォレルン城へ。ここも山城だがシャトルバスで上へ。美しいお城だった。今度のホスト宅はなんと 450 年経った古い一軒家。素敵なインテリア、広い庭。ここでも夕食は庭のテラス。ヨーロッパは蚊もいないし快適。夕食のジャガイモのバター炒めが美味しい。夕食後散歩。村の広場に人がいっぱい。お祭りみたい。ただ日本のように夜店はない。その後ホストの知人の家に寄り庭でおしゃべりして帰る。夜食にアイスクリームと自家製 (ですよ) の菩提樹茶。素敵な夫婦だった。翌朝駅まで車で送ってくれる。電車でチュービンゲンまで戻り予約していたユース hostel へ。ネッカー河沿いの建物、なんでもヒットラージュゲントが使っていたらしい。ここは二段ベッド。T さんに上段を使ってもらおう。年齢を口実に。今日は珍しく一日たっぷり時間がある。ダウンタウンの店を見て回りスーパーにも行く。私は外国に行く美術館よりスーパーと言うタイプなので嬉しい。お土産のお菓子を購入。後でわかるが最近では日本の方がお菓子も美味しい！！



翌日最後のホスト宅の町フラウエンフェルトまで電車で移動。駅に着いたらホストさんが待っていてくれた。しかも最初の晩に宿泊予定をキャンセルしたホストさんも一緒に！感動でした。このホスト宅は新しい高級マンションの一室。木材をふんだんに使ったモダンな建物。広さ 125 平米、それにテラスが 29 平米。

ここでも夕食はテラス。まだまだ明るい黄昏の風を感じながらの夕食なんて、日本では贅沢そのもの！サーバス会員であることの有難味を実感です。また夕食後はそばの小川の土手をそぞろ歩き。このホスト夫婦、キャンセルしたホスト、それに私達。街中の家の壁にはペイント壁画。すてき！ビューラッハのホストは散歩後、車で日本での再会をと言いながら別れ、帰って行った。翌日もいいお天気。今回の旅行はお天気に恵まれ最高。バスに乗ってワインヤードへ。広大な草原を 3 時間近く歩いた。ここでもトレッキングポール大活躍。スイスならではの風景、ハイジの気分。帰りのバスを待

っているときトイレに行きたくなった。ヨーロッパではいつもこれが大問題。ホストが近くにあった本屋に頼んでくれ、快く貸してもらえてスッキリ。

夕食はまたテラスで。ワインと大きなソーセージ。どこのホスト宅でも食事は意外と簡素、おもてなしはおしゃべりと言うことがよくわかる。一つ驚いたことにはこんな高級マンションでもバスルームはシャワーだけ、浴槽はない。

どんなに感謝しても足りないような今回のホスト宅での歓待。帰国してトラベラーを受け入れるときには参考にしなきゃ、と強く思ったサーバス旅行でした。

翌朝チューリッヒ空港まで電車で。駅まで送ってもらい名残惜しいお別れ。

今回の旅行の反省点は2点

- ①wifiを持っていくこと、空港などの free wifi はネットが繋がらない。スマホが使えなければ最悪。
- ②ホスト宅の宿泊の間にホテル宿泊をいれること。自由時間も大事。とは言っても本当に素晴らしい、「初めてのサーバス旅行」でした。

## 2 あこがれのスイス (2023.7.7)

関東支部 T. S.

2019年に始まった COVID-19 も、そろそろ終焉かな？と思える2023年2月に SERVAS News Bulletin で、The Pentecost meeting in Switzerland 2023 を見つけました。その中には幾つかのプログラムが載っていました。イタリア、ポルトガル、スイスなど魅力的なプログラムが満載です。その中の憧れのスイスを選んだのは、SERVAS Switzerland が企画したプログラムに参加することは勿論、アルプス山脈や鉄道網の発達した国を一目見たくて、SERVAS 会員や友人を誘いました。旅行会社が企画するパック旅行で行くのと違って、自分たちが目的地を選び、飛行機の手配をし、SERVAS HOST にコンタクトを取るのには手間暇の係る、容易な事ではありません。

後期高齢者の仲間入りしてしまった私は、これからどれだけ海外旅行に出かけられるのか、自分でも不安でしたが。そんな事を考える私ですがパスポートの申請には何のためらいもなく、10年有効を選んでしまっている私を我ながら、笑ってしまいました。

元気な内でなければ、海外は勿論、国内だって足を伸ばすことはできません。元気が一番。

を胸に刻み、羽田を出発しました。

コロナ禍の前は、SIM CARD, やモバイル WIFI の一応の知識は持って海外へ出かけていましたが、今回ほど必要性を感じたことはありませんでした。世界はますます IT 化が進んでいます。スイスの会場 Thalwil の参加者はスイス、ドイツ、インド、日本、総勢 21 名でした。

ウォーキングあり、自然保護区動物園散策あり、知らない者同士が打ち解けて会話ができるのも SERVAS あってからこそその付き合い方です。

最初の SERVAS HOST は T さんのご紹介の R さんご夫妻です。チューリッヒ湖に近い風光明媚な何とも言い尽くしがたい広々とした 3 階建ての屋敷に、2 階に広いバルコニーがあり、夜 9 時を過ぎて

もまだ、陽の光の明るい現地の夜長を Dinner とおしゃべりで楽しみました。



次の日にはフェリーで対岸の Thalwil へ移動しました。

3 日目にはインターラーケンへ移動。

インターラーケンからユングフラウヨッホへ山岳鉄道で移動。  
70%が山で覆われているスイスの鉄道事業は 1847 年に始まり、その頃の日本は、まだ徳川家茂の時代で、新橋横浜間の鉄道が開業したのは 1872 年でしたから、スイスは日本よりも 30 年近く早く着工していたことになります。



アルプスの乙女、ユングフラウ・ヨッホ標高 3454m  
ヨーロッパ最高峰の地点

ベルニナアルプスを見るためサンモリッツからティラーノを結ぶ世界遺産に登録されているベルニナ急行に乗りました。高度を上げるため何度もカーブを曲がり、更に山に近づいていきます。これを見るだけでも圧巻で、技術力の高さを感じます。白銀の世界のアルプスの山々は自然の営みが繰り広げられる別天地へむかう見事なパノラマが展望できます。

6日目：ティラノからベルガモのS.家



Host に到着時刻を知らせていたので、駅までマイカーで迎えに来ていただきました。私達メンバー4人を受け入れてくれるなんて、何とも肝っ玉母さん。と想像していましたが、学校の数学の先生をしながら、サーバスの受け入れをされている。しかも5人のお子さんのお母さんでした。22歳（l.）の長女に、20歳（e.）、17歳（E.）、15歳（i.）、12歳（最後がboyのL.）と賑やかなご家族で、G.という男の子は人懐っこい物怖じしない性格で、このご家族は私達に色々な質問をしてきました。何でも日本食がお気に入りの様で、私たちが日本から持参していた海苔巻きの材料を使って、細巻きや、カレーライス、ポテトサラダ（日本製のマヨネーズ使用）高野豆腐煮つけを準備すると、お友達も駆けつけ日本食に花が咲きました。



## 最後は Lucca の C. 邸



C. さんのお友達が沢山集まって下さいました。

にぎやかな夜を過ごしました。気楽なピザパーティーでした。フィレンチェ探訪や、最後の晩は心おきなくイタリアを満喫した旅として、心にとどめておきました。

この纏めが、これからサーバス旅行をされる方へお役に立てれば、幸いです。

## V 日本サーバス 50 周年記念誌

### —故 A. 名誉会長の自宅に保管されていた「記念誌」を進呈します—

2012年7月に発行された「日本サーバス 50 周年記念誌」18セット（上巻・下巻）を故 A. 名誉会長が保管されていました。ご家族からの連絡を受け、その記念誌を文書担当者が受け取りました。

（記念誌については下の Web ページをご覧ください）

<https://www.servas-japan.org/contents/members/news/50-kinensi-mokuji-chosha-2012-10.pdf>

サーバスの歴史がぎっしり詰まった重みのある記念誌です。発行から 10 年経過していることから、サーバス本部で検討し、以下のように対応することにしました。

ご希望の会員には、無料で宅配する。ただし、送料は着払い（ゆうパックで 1,000 円程度）をご負担いただく。

申込みは下の Web ページへお願いします。

Contact us (<https://www.servas-japan.org/mailform/contact0-jpn.html>)



P	概 要
1	<b>Cover 表紙</b> 写真は A. M. さん。パタゴニア旅行のまとめ役。Upsara 氷河のかけらを手にしている。
2	<b>What's in this issue</b> 本号の内容(目次) <b>Hello?</b> こんにちは M. J. SINB(国際サーバス会報)編集長 ①投稿募集:トラベラーとしてホストのを見つけ方を教えてください。ベストの方法は? 体験談をお寄せください。本誌に掲載します。②今後の世界各地のサーバスイベントを紹介。
3	<b>SI President's Message</b> 会長からのメッセージ R. R. 国際サーバス会長
4	2023年最初の四半期の振り返りと今後の予定。 ①ピースセクレタリーの M. W. さんと F. S. L. さんの活動。 ②サーバスは第 67 回「女性の地位に関する国連委員会」に傑出した代表団を送った。 ③いくつかの自然災害に見舞われた。トルコの大地震では会員の一人を失いピース・スクールのあった村がひどい被害を受けた。サーバスとして支援や寄付の方法について後程伝える。 ④国際サーバス本部は、サーバスの活動の発展のため、各国サーバスの協力を求めている。米・加・独・仏・英国と会合を持ち、その他の国とも順次連絡を取っていく。10 月にはオンラインで総会予定。⑤2022 サーバス国際会議でのワークショップ「サーバスは私にとって何か」で集めた参加者の回答分析と「共有したいサーバスの思い出」。8 件の事例を掲載。次号に続く。
5	<b>Keep in Touch</b> 連絡を取りあおう M. J. SINB(国際サーバス会報)編集長 40 年以上にわたるサーバス体験から。デンマークの Tina とタイの Pi. と Pa. との友情。サーバスで「古い友人」を訪れ、新しい友人を作るのはいつも楽しい。Keep in Touch.
6	<b>Thank You Servas India</b> サーバスインド、ありがとう S. サーバススペイン
7	サーバス国際会議の思い出とインドでのサーバス体験。①スペイン代表として 2009 年のアルゼンチンからインド大会まで参加した。わかったことは、国際サーバスの役員やホスト国の仕事の大変さと、協力して働く献身的なチームの存在。それまで 4 年かけて創り上げてきた「若者と家族委員会」の委員を降りたばかりで、インドでの国際会議は特別だった。②インドでの会議の後、初めてトラベラーの視点でサーバス体験をした。この広大な国インドの 4 つの都市を訪れて、素晴らしいホストたちに迎えられた。今後もスペインでトラベラーが素晴らしい体験をする手助けをしたい。
8	<b>My Patagonia Adventure</b> 私のパタゴニア・アドベンチャー R. S. スtockホルム
9	アルゼンチンの A. M. さんの情熱と組織力で世界各地から 22 名のサーバス会員が集まった。
10	参加者は 2 週間共に暮らし、素晴らしい体験を通してより親しくなった。山道の遮断や低温など想
11	定外の障害に直面したときは、各自の経験とサーバスの精神が役立った。広大な氷河や動物、
12	8000 年前の洞窟壁画の手形を皆が畏敬の念で見つめた。我々よりはるかに勇敢な先住民の苦難に思いを馳せた。生涯忘れることのない体験をサーバスの仲間と共有できて幸せに思う。 * 廃船や氷河の写真多数。冒険者たちの名前と出身国名(10 か国)

13	<p><b>Join our Instagram Team</b> 私たちのインスタグラムチームに加わってください</p> <p>インドの D. C. とイタリアの E. P. が中心となって国際サーバスのインスタのページを担当予定です。28 歳以下のやる気と技術に自信のある方を募集中。名前、年齢、サーバスグループまたは国名を送ってください。より多くの方がこのインスタグラムを盛り上げてくれることを望んでいます。国際サーバス副会長 C. K. <a href="mailto:vicepresident@servas.org">vicepresident@servas.org</a> or <a href="mailto:crsckris@gmail.com">crsckris@gmail.com</a></p>
14	<p><b>Israelis Meet Again</b> イスラエルのサーバス会員たちが集合 C. S. イスラエルサーバス会長</p> <p>2023 年 3 月の週末、サーバス会議をゴラン高原の Druze にて開催。Druze の A. が計画実行の責任者で、一行は彼の村 Buq'ata でピクニック後、彼の家庭を訪問、そして年次総会、会食等に国内から 70 名のサーバス会員が集った。数名のメンバーが役職を継続、新しいメンバーも選ばれた。メンバー間の絆が深まり、Druze 地区の生活や文化、宗教を学んだ素晴らしい週末だった。</p>
15	<p><b>The Cookbook</b> 国連のサポートによる、人々や地球のための料理本 J. D.</p>
16	<p>アメリカサーバス会員の E. C. (2016~17 にサーバスから国連に派遣されて、ニューヨークの大学で学び非営利団体の”Kitchen Connection”を立ち上げた)が主導して作った料理本。ニューヨークタイムズには持続可能志向の料理本だと紹介された。</p> <p>E. の活動は初めてのガーナでのホームステイでキッチンコネクションのアイデアを思いつき世界中にこの経験を伝えたいと思ったのが始まりだった。その後活動が評価され奨学金や賞を獲得した経歴を持つ。</p> <p>この本は美しいイラストそしてレシピ作者の紹介と、5 つの部門 (食料システム、生物多様性、持続可能な消費、食料と気候変動、食糧浪費を無くすこと)で構成され、食料供給の不均衡と不安定に注目している。最終目標は飢えを無くすことである。</p>
17	<p><b>Smart Suburban Solution</b> 賢い郊外ホスト代替解決法 L. L. パリ地区コーディネイター</p> <p>パリは市内と郊外のホスト受け入れの不均衡があり、彼はある解決策を思いつき、2022 年コロナ危機が落ち着いた時にその策が機能した。ホストができない時、またはコーディネイターとしてリクエストを受けたとき、ホストを見つける方法、彼はそれを”Itinéraire Bis もう一つの道筋”と名付けた。</p> <p>1 システムをトラベラーに説明 2 ホストリクエストをブラインドコピーで全ての”もう一つの道筋”に該当するホストに送る 3 受け入れ可能なホストはトラベラーに返信する 4 双方が合意すればそれをコーディネイターの彼に連絡をし、ホスト探しを取り消す(ブラインドコピーで)。</p> <p>このやり方はコーディネイターがたった2通のブラインドコピーを送るだけで機能する。実際ピーク時にも 90%以上の成功率を達成した。全てのトラベラーに郊外在住のホストを推奨する。ほとんどの郊外のホスト宅が公共交通を利用でき、観光地にも行ける場所にある。ロンドン、ローマ、東京、ニューヨークのコーディネイターの皆さんどのように問題を処理しているか知らせて欲しい。(編集長)</p>
18	<p><b>Two Shores of the Rio de la Plata</b> ラプラタ川の両岸 D. D. (ウルグアイサーバス会長)</p>
19	<p>アルゼンチンとウルグアイ両国のサーバスが偶然にも同じ日に年忘れの会をしたことから始まったミーティング。2022 年 10 月 21~23 日にウルグアイサーバスのホストがアルゼンチンサーバスのホスト数人とブエノスアイレスで初めての会合をもった。次回はウルグアイのモンテヴィデオでと約束を交わした。(写真はブエノスアイレスにて) 2 回目の会合は 2023 年 2 月 9~11 日にモンテヴィデオ、アルゼンチンの各所から集合した人々や仏、米、加からのトラベラーも含めて 12 名の参加。たくさんのホストやデイホストが多く時間を割いてくれ、参加者は様々なアクティビティを楽しみ、満ち足りた気持ちになった。(写真はモンテヴィデオにて)</p>

20	<b>What's Up In Pakistan</b> パキスタンの今 M. N.
21	2022 年は気候変動で引き起こされた洪水で 1739 人の死者、数十億ドルの被害を受けた。パキスタンサーバスは医療キャンプを R. 医師の指導の下に立ち上げ、ラホールのサーバスパキスタン本部に救護所を N. と A. の監督で立ち上げた。また、2022 年 12 月 6 日、サーバスパキスタンと宗教間の調和を目的とした国家平和委員会が平和の行進を組織し様々な宗教や背景を持つ人々が連帯する力強いシンボルとなった。 2023 年 2 月、サーバスの中心人物の一人 A. M. さんが平和と表現の自由をめざす 2 日間のイベントを企画し、大きな成功を収めた。目標は平和と自由の原理を尊重する寛容で包括的な社会である。
22	<b>Helping After the Earthquake</b> 地震の後の援助 M. A. サーバスルーマニアの R. C. とチームが義援金を持って車でイスタンブールに到着。彼らは甚大な損害を受けた地区に、毛布やテントと大量の医薬品を運び、自分たちの手で手渡した。この活動に参加したすべての人々に感謝を表明する。
23	<b>Servas Distribution Team</b> サーバス配信チーム(イベント配信の手順) C. K. と配信チーム イベントやミーティングの配信依頼が殺到し、この配信業務が各国のサーバス本部に重荷となっていた。それで、2019 年に次のように手順が整理された。①ワードのフォーマットに記入し <a href="mailto:vicepresident@servas.org">vicepresident@servas.org</a> ②国際サーバス本部がそれをチェック、必要があればその主催者に連絡確認 ③国際サーバス副会長がファイルをアップロード <a href="https://www.servas.org/en/events">https://www.servas.org/en/events</a> ④毎月第 1 週にサーバス配信チームが各国のサーバス本部に配信し、国際サーバスの担当者が各国の担当者に会員への配信を依頼する <a href="mailto:country@servas.org">country@servas.org</a> 注)アップデートが必要であればイベントのページに掲載 <a href="https://www.servas.org/en/events">https://www.servas.org/en/events</a>
24	<b>Servas and the UN</b> サーバスと国連
25	2022 年 11 月、国際サーバスのピースセクレタリー P. L. と 3 人の国際サーバス代表 H. S. , G. R. , K. M. がサーバス国際会議(インドにて)に出席し、次の 4 つの、サーバスと国連の関係に関する会議を主導した。①国連における NGO、国際サーバスの役割と活動 ②国連の持続可能な発展のゴール:世界平和をどう促進するか? ③サーバスと ICAN 核兵器廃絶国際キャンペーン ④サーバスと CSW 国連女性の地位に関する国連委員会。 2023 年 3 月国連での CSW にサーバス会員がオンライン(30 人)と対面(11 人)が参加。世界中の NGO の 1 万人以上が参加。同時に国際サーバス国連代表 J. C. がアフガニスタン出身でドイツとカナダ在住の少女たち 2 名の発表。トルコサーバス会長の G. E. がピース・スクールについて発表。
26	<b>Show of recognition and appreciation for C. P.</b> 国際サーバス遠隔投票責任者 2009-2022 国際サーバス会長の J. S. からの、国際サーバスの民主的な手続きと伝統を強め、これからも長い間手本となる様式を作り上げてくれた P. 氏への感謝状。
27	<b>Our First Peace Forum</b> 私達の第 1 回ピース・フォーラム M. W. 国際サーバス代表 F. と M. は 2023 年 4 月にサーバスピース・フォーラムを開催。議題”SYLE:サーバスユースメンバー間で言語を教え合うプロジェクト”。20 年前の発案者 P. も参加。今までこのイベントで多くの若者が恩恵を受けた。今後定期的にミーティングを開催予定。次のサイトでその様子が配信される。 <a href="https://www.youtube.com/@servasinternational2037">https://www.youtube.com/@servasinternational2037</a>
28	<b>Key Persons</b> 各国役員

	2023年1月に多くの国でサーバスの新役員が決定している。以下のページにも写真付きで紹介されている。旧役員についても感謝の念が表明されている。 アメリカ合衆国サーバス
29	インドサーバス、サーバス国際会議開催へ尽力してくれた前インドサーバス会長達への謝辞も述べられている。
30	ドイツサーバス ペルーサーバス
31	トルコサーバス M. A. のピース・スクールはこれからも継続する。
32	アルゼンチンサーバス イスラエルサーバス
33	ベネズエラサーバス ネパールサーバス
34	チリサーバス
35	日本サーバス 以上リスト作成は R. D. (写真) 日本サーバス近畿支部のミーティング時の写真が掲載されている。
36 ページ	<b>Servas International News Bulletin 国際サーバスニュースレター (SINB)</b> SINB の各担当者と連絡先が掲載されている。 国際サーバス本部 <b>SI EXCO 2022-25</b> (アドレスと役員の写真) *サーバス精神: 各国の国際的、非営利、非政府の団体「サーバス」の連合体で、ホストやトラベラーのネットワーク作りを支援する仕事をしている。この団体は、様々な文化、背景や国籍の人々の間に個人の触れ合いの機会を提供し、世界平和の構築、親善、相互理解を促進することを目的としている。

国際サーバス会報 Vol.28、2023年 No1 翻訳要約担当 国際部 U. T. K. K.、T. F.

## Ⅶ 編集後記

お盆の最中に生まれた私は、子供の頃誕生日のお祝い、ケーキやプレゼントなど望むべくもなく、毎年がっかりして過ごしたものでした。しかしながら、お盆の間たくさんの親戚の出入りがあり、ご馳走もあり、いろいろな人との交流は面白くもあり、ストレスもあり、特別な時間でした。

さて、昭和のそういう集まりもなくなったこの頃は、迎え団子を作って両親の帰りを待ち、送り団子で送りました。近くに住む孫たちが喜んでお団子を食べ、ゲームで一喜一憂、盛り上がりました。災害の多いこの国に住んでいることを強く実感したこの夏でした。涼しくなってまた活動できる日を心待ちにする今日この頃です。豊かな実りの秋になりますように。

記 日本サーバス副会長 T. F.